

ネットワークづくりの重要性強調

「地域から世界へ」行動する国際ボランティア」をテーマにした読売新聞関西部本社主催のシンポジウムが二十九日、周南移動支局の会場となっている下松市のザ・モール周南に隣接するスターピアくたまつ展示ホールで開かれた。

河村憐次・同市長ら約三百人が参加。各地でボランティア活動を実践している五人のパネリストが、それぞれの立場で自らの活動の課題や今後の展開などについて論議を交わした。

保科代表が「実り多い論議を期待します」とあいさつ。河村・下松市長が「ボランティア活動を考えよう」などで、時宜を得た企画」と述べた。シンポジウムでは、紛争や災害の最前線に医師や看護婦、物資を派遣するなど緊急援助活動を続けているAMD A（アマダ・アジア医師連絡協議会）

日本支部の近藤祐次事務局長が「地域社会とNGO活動」と題して、基調講演。AMD Aの国内外での活動例を具体的に紹介しながら「いかに、協力してくれる数多くのパートナーを作るかが迅速な活動につながる」と、ネットワークづくりの重要性などを語った。

シンポ「行動する国際ボランティア」

長が「地域社会とNGO活動」と題して、基調講演。AMD Aの国内外での活動例を具体的に紹介しながら「いかに、協力してくれる数多くのパートナーを作るかが迅速な活動につながる」と、ネットワークづくりの重要性などを語った。

パネルディスカッションでは、曹洞宗国際ボランティア会（SVA）の有馬実成専務理事がコーディネーターとなり、岩国ユネスコ協会の三原善伸理事、青年海外協力隊県OB会の吉田昌司会長、国際医療協力山口の会（IMAYA）の今田時雄事務局長、曹洞宗国際ボランティア会神戸事務所所長の三原靖子さん、さらに近藤事務局長が加わった六人が発言。

「コーヒー一杯を被災者に届ける」ことも立派なボランティア」（今田さん）、「ボランティアを通じて学んだことのほうが多い」（吉

田さん）といった発言のほか、会場からは「ボランティア団体に支援したいが情報が少ない」という声も。

参加者でボランティア活

◀熱心な討議が行われたボランティアシンポ

動を二十年間続けている同市内の女性（五五）は「話を聞くことができてとても参考になり、自信もできました」などと感想を話していた。

地域から世界へ行動する国際ボランティア

